

## 令和6年度第5回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 会議名 令和6年度第5回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 令和7年3月25日（火）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所 3階 特別会議室
- 4 出席者
  - (1) 委員 石川恭也委員、岡田英利委員、熊谷道仁委員、河野麻希子委員、鈴木美樹子委員、高橋雄浩委員、千田光柳委員、堀籠義裕委員、山崎裕也委員
  - ※欠席者 押切浩実委員、熊谷志江委員、佐藤崇史委員、下川理英委員、鈴木直子委員、野村勉委員、橋本華恵委員
  - (2) 事務局 今野薫市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、小山隆之政策企画課長補佐兼政策推進係長、佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事

### 5 議 題

- (1) 第2期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について
- (2) 次期総合計画前期基本計画体系案について

### 6 公開、非公開の別 公開

### 7 傍聴者の数 なし

### 8 審議内容

- (1) 第2期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

事務局から資料No.1に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 意欲ある農業担い手支援事業費補助金について、改定前のいちのせき新規就農者家賃補助金、いちのせき親元就農促進事業、いちのせき農業承継事業の3事業を包括した内容に変わったということか。

まとめた結果、拡充や減となった部分などがあれば聞きたい。

事務局 意欲ある農業担い手支援事業費補助金については、令和5年度から実施している、農業機械の購入等に対する補助金。複数の事業があり分かりにくかったことから、改定前の3つの補助金を組み込むかたちで整理したもの。内容の拡充はない。

委員 地域ビジネス創出加速化支援交付金について、事業概要で「市内で起業する場合等」とあるが、ほかにどのような場合が対象となるか。これまで起業者に

対して行っていた起業者経営安定化支援事業補助金による起業3年以内の支援を令和6年度に終了し、令和7年度から地域ビジネス創出加速化支援交付金に切り替えたとのことだが、新しい事業は特定創業支援等事業の受講者のみと、対象者を限定的にしたものか。

事務局 記載の場合以外に対象となる場合は、自社の企業価値の向上を図る取組をする場合、特定創業支援等事業の講座に市外の方が参加する場合である。特定創業支援等事業の講座、シゴト・ツクル・アカデミー等を受講した方のみが対象となり、受講していない方は交付金の対象外となるが、起業してから3年という支援期間の縛りはなくなった。

委員 講座受講が前提のため、結果として利用できる人の間口が狭まっている。

委員 一方で、いわゆる第二創業のような、既存事業者が講座を受講し新規事業を起こすような場合も対象になった。

事務局 考え方として、今までは起業者を育てるために知識部分に焦点を当て、今度は次のステージとして実際の起業を捉え、支援をする。次の段階に進んだというイメージで事業を組み立てた。

委員 理解はしているが、理想論でいえば、伴走支援と創業支援の2本立ての応援がほしい。今回の事業は、創業支援の制度を使った人だけを支援する組立てのため、2本立ての支援としては対象者に漏れが出てくると思われる。

委員 担当部では、新しいビジネスに取り組む人のコミュニティを作る意味で、講座に参加してほしいという思いを持っていると思われる。自分のやり方でやっていきたい方への支援のニーズは、確かにあると思った。

委員 「J-クレジットの販売収益を脱炭素化の取組に活用」という記載があるが、収益はどの程度を見込んでいるか。また、活用する取組はどのようなものか。

事務局 令和7年度予算では、1,100万円ほどの歳入を見込んでいる。毎年販売をしながら収入を事業に充てていく。充当事業は、総合戦略の該当部分に記載している事業などを予定している。

委員 新規高卒者地元就職応援事業について、対象者への周知方法について聞きたい。

事務局 市ホームページ、広報での周知のほか、新規高卒者の就職先の事業所あてにお知らせを送付する予定。

委員 新規高卒者地元就職応援事業は新規就職者を対象とするとのことだが、将来的に、離職防止などの視点から継続して何年か勤務した場合に商品券を交付することも検討してはどうか。他市町村でも行っている。

事務局 今年度新規の事業であり、地元就職を促す事業。新規高卒者のうち市内に就職する人が限られていることから、今回取り組むもの。定着は次のステップの話と捉えている。

委員 新規高卒者の市内就職について、千厩高校は市内就職率が60%を超えている。

事務局 市内の高校3年生全体のうち、7割が進学、3割が就職となっており、この3割の就職希望者の半分が管内に就職している。人数としては150人程度が管内に就職している。

委員 一関管内は仕事があるので、県内の高校の中でも地元定着率が高く、非常に優秀な地域。他の管内と比較すると明確である。地元定着率が高いことは皆さん知っておいていただきたい。

事務局 市内就職の約150人に対し3万円ずつ商品券を交付する取組であるが、全地域で使える共通の商品券はないことから地域ごとに発行されている商品券を交付し、地域内経済循環という視点も含めて、事業の組立てを検討した。

委員 商品券が交付されるということで当事者はありがたいと感じると思うが、地域ごとの商品券だと使用できる店舗が限られており、特に若い子であれば使うのが難しいと感じるのではと思った。市の共通の商品券があるとよいし、使用状況や対象者の意見を聴きながら進めていくとよい。

事務局 商品券は市で発行しているものではないため、商工会などと相談していきたい。使う側も工夫しながら使っていただきたいと思っている。

委員 商品券を配るときに一言添えるなどの配慮があってもよい。

## (2) 次期総合計画前期基本計画体系案について

事務局から資料No.2-1からNo.2-4に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 中目標「暮らす機能の整備」の「11-2 公共施設」について、現状の問題はこのとおりだと思う。私が住んでいる地区でも、今月、公共施設が閉鎖する。地震や大きな火災など、防災面でも不安が残る。建物そのものが次々なくなっていく中で、機能の利用という部分がしっかりできるか不安があり、目指す姿が分かりにくい。

事務局 当市は8市町村が合併した市であり、公共施設についても各地域に1つずつあるなど重複しているものもあり、整理を進めてきたところ。一方、避難所については、居住環境の快適性やプライバシーも重要視されてきており、冷暖房や段ボールベッド、仕切りによる居住空間の整備などの議論がなされているが、学校体育館を想定しても整備にかなりの金額が必要となり、着手していない実態がある。

座長 施設の整理やメンテナンスと住民の安心の維持のバランス、「13-1 安全のまちづくり」とのバランスをどう図っていくかという話である。

委員 これまでの総合戦略とどういった部分に違いがあるか。今後力を入れていきたい部分などはあるか。

事務局 総合戦略は人口減少の抑制につながる取組をまとめた内容の計画であるのに対し、次期総合計画は市が行うすべての取組、市民の皆様が行う取組などを広く含む計画である。これまでの総合戦略よりも広い視点での計画となっている。次期総合計画のうち重点プロジェクトを抜き出しまとめたものを、総合戦略として位置付ける予定。

委員 行政サービスを拡大していくイメージと受け止めたが、手広くやりすぎてもうまくいかないのではという思いがある。取組を集約してはどうか。

事務局 総合計画という性質上、総合的な、何でもやりますという計画になりがちであるが、人口減少への対処を最大のテーマとして、人口減少への対処の取組を進めていく考え方のもの。全ての事業を今までどおり行うというのは難しいが、DXやデジタル技術などを最大限に使いながらサービス水準の維持・向上と事業の進展を図るとするのが基本的な考え方。

例えば、他市町村では、オンラインによる手続や証明書のコンビニ交付なども普及していることから時間を多少短くしても住民サービスの縮小とはならないという判断により、窓口業務を行う時間を午前9時から午後4時半までなど短縮している例がある。時間短縮により浮いた人的な余力を別の事業に振り向けるなど、工夫をしてやっていきたいと考えている。災害時の避難所運営も、地域の協力をいただきながら行うという方法も必要。

委員 地域と市とのバランスも気になるところ。支所機能を本庁に集約するなどのビジョンもあるのか。

事務局 国では、行政機能、医療機能、介護機能などを集約したまちづくりとして、コンパクトシティという方向性を持っている。一方、一関市では「今住んでいる所に住み続けることができる」というまちの姿を目指している。コンパクトシティという視点を持ちつつも、買い物や病院など、住んでいる場所で利用できるようにしたい。

委員 事務局の説明で人口ビジョンが示されたが、人口が減り、市の職員数も減り、税収も減ることを背景に、行政サービスをどのように維持確保していくものか。支所に人を配置し続けて維持しなければならないサービスは何か、現場に残さなければならないサービスは何かを考えていく必要がある。また、医療や買い

物などのまちの機能についても同様に考えていく必要がある。現状の欄は今の姿を書き出してみ、行政は何を集約していくか、何をどう把握しているか、行政としてやらなければならないことを絞っていく作業に使用していくことになる。

委員 「3-1 学校教育の充実」について、「すべてのこどもが充実した学びの環境の中で成長できる」とあるが、自分が感じている範囲だと現状で住み続けられない事情も生じている。大東町では中学校が統合し、規模が大きくなったために各教科の専門の先生が授業をするものと思っていたが、実際には数学の先生がほかの教科も教えるなど、なかなか充実した環境とはなっていない。授業が充実していないため、子どもたちは授業中にタブレットで違うことをしているなどの現状もあるようで、このような状況だと学びも生活も充実している市の中心部に住んだ方がよいと思うこともある。人が少ないために公園も避難所も施設そのものも使えなくなって、これにより人がさらに住まなくなる。賑やかな市の中心部や仙台、関東に住みたくするのはやむを得ないと思う。やはりきちんと住める状況を整えてもらわないと、人口減少が進むのはやむを得ない。改善策として、離れた地域に住む子どもたちへ習い事の交通費を補助するなどの支援があるとよい。

事務局 学校教育については、市町村の担当領域と県教育委員会の担当領域があり、市町村だけでは解決できないところがある。部活動についても、子どもの人数が少なくなり成立しない部活動や教員の働き方改革から、地域部活動へ移行が進み、学校と部活動が離れる方向になっている。今住んでいるところにずっと住み続けられるようにするためには、仕事を作っていくことが基本であり、住んでいる地域にかかわらず仕事を選ぶことができ、十分な報酬を得られる働き方ができるようにしたいというのが理想的な姿と考えている。

委員 今年度の中学3年生は市全体で824人、前年比で66人の減。減った66人の内訳は、旧東磐井地域が46人であり、市内の西部の地域は20人くらいしか減っていない。来年度の中学3年生は825人で、総数としてはほぼ横ばいだが、東部の地域は16人減っている。一関東中学校と桜町中学校が増えている。

私は、市の東部の地域の課題と一ノ関駅周辺の課題の2つを分けて考え、取り組んだ方が進めやすいのではと思っている。例えば高校は東部の地域に2つあるが、東部の地域の中学校の生徒のうち約45%が千厩高校に進学している。これを60%に伸ばし、地元定着や外に出ていけない指導を受けた生徒たちが市内に就職すれば、人口はキープできる。これに工業団地の整備などを組み合わせ

せた展開が東部の地域でなされればと思っている。一方、西部の地域では、進学者が多いことから一度外に出た人が帰ってくるようにする戦略がよい。

どうやって生徒を増やすかという視点では、西和賀高校や葛巻高校の取組のように外から生徒を受け入れ、定着させることが重要であり、定着にはこのまちを好きになってもらうことが必要である。使われていない住宅を改修し、下宿にするなどの取組も、西和賀町の成功例の一つであり、検討してもらいたい。

もう1つ、外国人の高校生を100人単位で呼び、この地を好きになってもらい定着してもらう。現実的にはこのような政策もよいのではと、学校現場から考えていた。

委員 子どもたちの心をつかむような取組があるとよい。暮らした地域での思い出や学校生活の記憶などがあると、戻ろうかなという気持ちにつながる。地域おこし協力隊の方が挑戦している新しい取組を大きく周知したり、西和賀高校や葛巻高校のように外から入ってくる人に手厚い支援をしたり、魅力的で思い切った戦略に取り組んでみてはと思う。

市内でも西部と東部の問題が全然違っているため、2つに分けるとするのは面白く、魅力的な取組になるのではと感じた。

委員 魅力ある住みよいまちといった場合に、景観は重要である。イメージが悪いと戻ってきたいと思わない。市は景観保全にどれだけ予算をかけているか。岩手県で国体を開催したときは、道路脇の草の刈り払いなどを徹底して行い、非常にきれいになった記憶がある。この水準までとは言わないが、それなりに本気で取り組まないと景観がきれいに保てない。

国内どこに行ってもセイタカアワダチソウが繁茂しているが、冬になっても枯れず、景観悪化の原因となっている。地域の老人クラブなども環境美化に取り組んでいるが限界があり、市が主導し景観保全をすべき。

もう1点、農業の担い手の確保について。新規で就農する場合、資材の高騰などから初期投資が非常にかかるようになり、若手の担い手が定着しない原因になっている。一層の対策、支援が必要。

事務局 これまでの意見について、高校生を市外から受け入れることについては「14-1 移住人口・関係人口の拡大」、景観については「16-1 景観保全」や「18-1 自然環境・生態系などの保全」など、それぞれ該当する分野の目指す姿や現状の部分に反映させていく。

9 担当課 市長公室政策企画課